

「税金」それは、私には関わりのないものだと思っていた。ある日、私は母と買い物に行き、消費税で思ったよりも高額になったため「なんで税金って払わなあかんの。」と母に尋ねた。すると母は、「税金がなかったら、今当たり前にできよることはできんよ。」ときっぱりと答えた。それ以上話すことはなかったけれど、私の心にはまだ疑問が残っていた。

今年の七月、租税教室が行われた。税金は私たちが毎日使っている教科書など身近なところにたくさん使われていることを知った。驚いた私は、税金について調べてみた。すると災害復旧費というものがあることを知った。日本は災害がとても多い国だ。最近も熱海市の土石流のニュースに心を痛めたばかりだ。私も災害を経験したことがある。

私が小学一年生の夏、相次ぐ台風により、那賀川流域では甚大な浸水被害が発生し、特に私の家がある和食・土佐地区では、二七九戸もの家屋浸水被害が発生したのだ。二年生の夏は、私の家は倉庫にしていた一階が浸水した。幸い生活場所が二階と三階であったため、避難することはなかったのだが、停電により、肺の悪い祖父が使っていた酸素の機械が動かなくなってしまった。いつもその機械で酸素を吸入していた祖父にすれば、機械は命綱とも言える。幼かった私はどうすればよいか分からず不安を募らせていた。そのとき消防の方がボートに乗って祖父のために発電機を持ってきてくださった。そのおかげで祖父の機械を動かすことができたのである。私は消防の方に「大丈夫やけん。がんばりよ。」と声をかけていただき本当に勇気づけられた。台風が過ぎ去ったあとも、家の周りにあった大きながれきを片付けてもくださった。

もし税金がなかったら、消防の方は来てくれないし、祖父の機械も停電のまま動かすことはできなかつた。私も不安なままで夜を過ごすしかなかつただろう。母が言っていたように、税金がないと、当たり前にできることはできないのだとわかつた。税金とは、いつでも私たちを助けてくれる、なくてはならない存在だと思った。

度重なる浸水被害をなくすため、多額の費用と時間をかけて建設してきた町の堤防工事が、今年五月、ついに完成した。町の景観が一変するほどの大工事は、六年という長い歳月をかけて行われた。堤防が完成したことで、私の家はもう浸水被害の心配もなくなつた。堤防工事をしてくれている人たちの姿や、徐々に完成していく堤防の様子を見ながら、私たちはたくさんの人や税金に助けられているんだと実感し、深く感謝した。町を守ってくれるのが堤防であるように、税金は自分自身を守るためのものでもある。租税教室により、税金について知り、税の大切さを学ぶことができて本当によかつた。みんなが感謝の心で税を納められる社会にしたいと、私は今心から思っている。